一般市民向け ワークショップ (結果)

10年後の羽材市を考える 前民ワークショップ ≪第1回≫

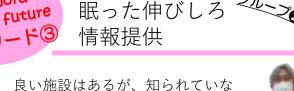
- ♣ 開催日時 令和 2 年10月17日(土)午前10時~正午
- ◆ 開催場所 羽村市生涯学習センターゆとろぎ レセプションホール
- 参加者数 12名
- ★コーディネーター 松本祐一さん(多摩大学経営情報学部教授)
- ◆話し合った内容 ・羽村市の強み(「宝・誇れるもの」「未来に残していきたいもの」)
 - ・羽村市の弱み(「残念なところ」「未来に残したくないもの」)
 - ・羽村市にとってのピンチとチャンス
 - ・今後の羽村市の未来につながるキーワード

当日は、3つの班に分かれ、上記の内容を対話を通じて考えていきました。班ごとの主な内容は次のとおりです。

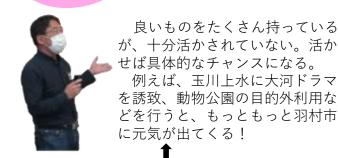


Keyword For the future

眠った伸びしろ



第4回羽村市長期総合計画審議会(R3.3月書面開催)



Keyword For the future キーワード①

あるものを活かす

For the future 良いものをたくさん持っている

せば具体的なチャンスになる。 例えば、玉川上水に大河ドラマ を誘致、動物公園の目的外利用な どを行うと、もっともっと羽村市 に元気が出てくる!

弱み

· 拡張性不足

まない

・交通アクセスが悪い

・羽村駅西口開発が進



Keyword

施設、歴史資料な ど強みになる部分 があるが、うまく 有効活用されてい ない!

い。その理由は、市からの情報発信 が分かる人には分かるが全体に行き 渡っていないから。

ハード面だけでなく、技術を持っ た人材も隠れている。年齢に関係な く、羽村は人材の宝庫!





- 水はむら
- •動物公園
- ・多摩川
- ・自然豊か
- ・文化、神社・仏閣が
- はむらふるさと祭り (全小学校参加)
- ・圏央道・横田基地が 近い
- ・動物公園の目的外利用 ・大河ドラマで玉川上水
- ・横田国際空港
- ・モノレール
- ・動物公園、清里の 財政負担

ピンチ

·工場企業誘致

強み

- ・コンパクト(歩いて行け る、自転車で行ける)
- · 歴史資源
- 動物公園
- ・先手の気質
- ・歴史と賑わいのミックス (まいまいず井戸)
- ・産業、住居、商業の バランスが良い
- ・チューリップ畑
- ・コロナ感染者数増えてい ない
- ·外国人労働者(居住者) の増加

弱み

活用

- ・交通が不便なところも ある
- ・郷土を知らない

・市の施設が有効活用

・空き家ができている

・農地の相続による減少 (→まちの魅力崩壊)

されていない

・市の税収の減少

町内会の加入者

の減少

・歴史、レガシー、施設 の充実が今一つ

強み

- ・安全 ・自然 ・玉川上水 ・工業団地
- ・福祉施設が多い・元気な高齢者が多い ・街がきれい(住民意識が高い)
- ・伸びしろがある(むしろ多い) ・先人のやる気、新しいまちを作る チャンス!
- ・すごい力を持っている方が隠れている
- ・市が個人経営者とのパイプ役になったら ハッピーでは?
- ・利用価値のある場所がたくさんある
- ・昔から変わらない(伸びしろがある)
- ・企業と市民の協働があるとよい
- ・隠れた人材が多い
- トイレが多くきれい
- ・市民の巻き込み活動
- まちを愛している
- ・西口開発を早く進める

チャンス

- ・福祉施設がせっかくあるのに 使われていない
- ・特筆すべき特色がない
- ・施設が点在している
- 横のつながりが少ない
- ・市からの発信が少ない
- ・どうしていいか分からない
- 財政難 街がさみしい ・ローカルコミュニティが あまりよくない
- ・ 西口再開発の遅延
- ・市民が知らない事実が多い
- ・市長選、市議選に出る若い人 がいない
- ・お金任せのアウトソーシング (市民の自立を阻害?) ピンチ



松本コーディネーター からのまとめと 第2回に向けたコメント

チャンス

3班とも、未来につながるキーワードは、<a href="mailto なるでしょう。

◆ポイント◆ ①人や知識、歴史なども活用できます。

チャンス

②今までの目的と違った活用をしていくことで、新しい価値がうまれます。

ピンチ

- さらに!→ちょっと見方を変える、何かとつなげることで、無限にいろいろなものが出てくる。 →地域を知ることで、よりアイディアが出てくる。市民が考え、発信することが重要!
- ◆**第2回に向けて**◆ 次回は、「まちのあり方 | や「10年後の羽村市でこんな生活ができたらいいな! | ということを 考えていく。その視点で、生活したり、まちを眺めたりして来てください!



-1-

10年後の羽材市を考える市民ワークショップ <第2回>

- 令和2年10月30日(金)午後7時~9時
- 羽村市役所 4 階大会議室A

- 参参加者数 13名
- ◆ コーディネーター 松本祐一さん(多摩大学経営情報学部教授)
- ・10年後の羽村市の理想生活を考える
 - **→**羽村でこんなことができたらいいなを集める
 - →集めたものの分類(「動詞」で分類してみる)
 - ・「全体をまとめて」または「注目すべきもの」で、

「○○を活かして、○○な生活ができるまち」を考える





10年後の コミュニティバス はむらんを活かし、誰でも 便利な生活ができるまち

遺跡や歴史遺産の学びの部分や、動物公園や買い物、病院 など、羽村の良さを生かすための「移動手段」がまだ充実し ていない。

また、高齢者や外国人など、さまざまな方に向けた暮らし の部分が充実していくと良い。

はむらんは空いている時間もあり、活用できていないことも ある。デジタルフォーメーションなどを活用してうまく回転 できるとよい。



理想の姿

市民のアイデアを活かし、 人々が集まりやすいまち

羽村は都会からも田舎からも同じ時間で行ける真ん中の位置で、その地理的 な部分を活かして何ができるか。

羽村に人を集める際に、施設の目的や、付帯施設の充実を掲げ、さらに、施 設へのはむらんの巡回を行うと、人が集まっていく。

市民がまちづくりにもっと参加するためには、広報の使い方として、市に寄 せられる苦情を市が回答するのではなく、市民意見を募る取組みなどを行うこ となどに、市民がもう一歩まちづくりに入っていくヒントがある。

羽村でこんなことができたらいいな!



羽村市の10年後を考える市民ワークショップ ~ 見つけよう、あなたの理想の未来の羽村~

第4回羽村市長期総合計画審議会(R3.3月書面開催)

【資料1-1】−般市民向けワークショップの結果

羽村の 理想の姿

グループ ソフトとハードの 調和を活かして安心な生活が できるまち

多摩川流域には、地域の自然や、人々のぬくもりを持つ 癒される空間がある(ソフト面)。

青梅線以東は、ハード部分。交通インフラを整備し、人 の往来を良くすると、工場誘致などができる(ハード面)。 「東側(工場)で働いても、西側(多摩川エリア)で癒

される」というような、まちの展開ができる。 10年後の理想には、豊かさより、安心が欲しい。



羽村でこんなことができたらいいな!

・落ち葉のプール

・休日はスポーツをし

遊ぶ

- ながら暮らせるまち
- ・きれいなコーヒー ショップで読書

参加する

- ・遺跡発掘に参加で きるように市が情 報発信
- ・歴史遺産の整備と 活用と参加
- 働きたい人が働け る社会(高齢者や障

学ぶことができる

大学を作る

- ・デジタル大学の設 立(データサイエ ンスを含む)
- ・学園都市(デジタ ルの重視)
- 学び直しができる

住む

- ・高齢者が散歩できる はむらんでの移動
- ・バス停の充実化
- ・買い物がしやすいま ち(衣服なども簡単 に買える)

移動する

·動物公園、郷土博物 館、チューリップ畑 などの市の名所や、 買い物、病院に行く ことができる

・売り切れ前に直売所 に行くことができる

PRする

- ・「おいしい水」 No.1
- ・ゆるきゃらグラン プリNo.1
- ・ゆとろぎでライ ブ・講演会
- ・映画の舞台(アニ メ、漫画とコラボ に聖地巡礼)

羽村市が有名になる

自分たちが暮らしや すくなる

・認知症の人でも

- 凩らず暮らせる ・医療関係モールが できる
- ・自給自足
- 予防医療の進化 (深化)
- ・国際的なまち、多 文化共生が実現し た社会

羽村市に住もうとす る人が増える

市の活力が維持され て暮らしやすくなる

・はむらんを利用する ことで、より移動し やすい社会へ

動く

- ・はむらんの福生や瑞 穂との連携ができな いか
- ・はむらんを無料に
- ・高齢者、体の不自由 な方、子ども全ての 人に便利なまち
- あらゆる人たちが動 きやすい創造的なま ちづくりを!
- ・まちづくりをしてき た人たちの想いをマ ンガに!

集まる

- ・ドッグラン等、同 じ趣味を持ってい る人々が集まれる 場所をつくる
- - ・玉川上水を観光資 源として捉えて、 人が集まる場所に
 - ・人を呼び込む
 - ・同じ趣味を持った 人が集える施設
 - ・玉川上水でだんご
 - ランドマーク的な 所を作る(多摩川

知らせる

- ・まちづくりをして きた人たちの想い をマンガに!
- 羽村にドラマを
- ・坂が多い
- ・坂の上と下で景観

- ・キャッチフレーズ
- が異なる

理想の姿のポイントとなること

- ・人の集まる場所(施設の目的、付帯施 設の充実)
- ・広報の方法を考える→年代で情報の得 方が違う(デジタルを使うかは2極化)
- ・市民が誇りを持てるものは何か
- 集まる場所の提案ができる!
- 普段の生活を充実させる ・コーヒーを気軽に飲める場所

- 考える ・ベッドタウンから、
- ライフタウンへ ・企業とのつながり
- ・子ども・高齢者の ・田舎と都会の真ん
 - ・立場をこえたぬく もりを感じるまち (高齢者が安心して
 - 暮らせるまち) ・自然を残す

に

コミュニケーション

広がる

・町内会活動を活発

対話を増やす

羽村を知って もらえる

羽村でこんなことができたらいいな!

人の往来を 良くする

- ・圏央道小作イン ターチェンジ
- ・横田国際空港

大橋のドッキン ・モノレールの

- 羽村駅への延伸 ・玉川上水でボー
 - ト運用

・羽村街道と羽村

松本コーディネーター からのまとめと 最終回に向けたコメント 10年後の羽村の理想の姿として、素晴らしいまちのコンセプトを作っていただいた。 コンセプトとは、その言葉を見たら、これから目指すことや、行動すべきことがわかること。 かっこいいキャッチフレーズではない。

◆最終回に向けて◆ 本日検討したコンセプトを実現するためにはどうしたらよいか。 行政がやることと、市民ができることは違う。

次回は、市民目線で、【羽村市の「未来のためにできること|】を考えていきます。

その他のキーワード 工場やホームセンター ・モノづくり大学

10年後の羽材市を考える市民ワークショップ≪第3回・最終回≫

- ◆開催日時 令和2年11月8日(日)午後2時~4時
- ◆ 開催場所 羽村市役所 4 階大会議室A

理想の姿の実現のため、それぞれができること!

- 参参加者数 13名
- 一時保育利用 1名

- ★コーディネーター 松本祐一さん(多摩大学経営情報学部教授)
- ・羽村市の「未来のためにできること」を考える

→第2回でまとめた10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)を実現するためにできることを、 具体的に、たくさん集め、行政・企業・自治会・学校・市民などに実施主体を分類しながら考えていく

・参加者全員から「私がやれること、やりたいこと」をコメント

10年後の 羽村の 理想の姿

コミュニティバス はむらんを活かし、誰でも 便利な生活ができるまち

10年後の 羽村の 理想の姿

市民のアイデアを活かし、 人々が集まりやすいまち

理想の姿の実現のため、それぞれができること!

た

ま

個人(市民)

- ・町内会等に積極的に参加する
- ・あいさつ
- ・市の事業にできるだけ参加し、 情報を得る
- ・地域の方々とコミュニケー ションを多くする(隣近所)
- ・市史、文化財に対する知識を
- ・花いっぱい運動の参加
- ・地域に居住し、いろいろな問 題点を近隣の方々と率直に話 をする

町内会・自治会

・町内会への積極的な勧誘

行政

- ・他市とコラボ
- ・SNSのフォロワー
- ・プログラミングの知識 ・デジタル大学の創立
- ・一時保育の無償化または安く
- ・羽村七福神巡り。神社と観光
- 歴史資源を結び付けて、点か ら線への展開 ・遺跡や文化財巡りに物語性を
- 持たせてガイドする。
- ・ポスターを貼っておける スペース
- ・はむらんタクシー(免許返納 者や高齢者・障害者等に対す る無償化)
 - ・特産品(手土産になるよ うな)
 - ・遺跡・文化財に関する商 品を博物館などで売る
 - ・羽村市内での雇用
 - ・eスポーツの大会誘致、ス ポンサーの獲得

企業も一緒に

eスポーツの大会誘致などのデジタルの話から、歴史的な ものの情報発信などの意見があった。また、羽村市の特産 品と言われて思いつくものは、水かチューリップくらいで、 他地域に持っていく"羽村のお土産"というものがないので、

主に行政にやってもらいたいことが多くなった。

そのようなものを作れたら良い。

町内会等は、積極的な参加を呼び掛けるところと、そう でないところの差があり、地域の人とのコミュニケーショ ンをとっていけたら良い。

個人 (市民)

- ・町内会、青少対などの役員の活性化 ・大人と子どもがかかわりあう意識の
- ・子どもと大人の「つながり」の 重要性をどう維持していけるか
- ・小さな企画(コミュニティ)を 増やす。同じようなグループが大 きくまとまる。

行政

- ・市民が自分たちの活動を紹介できるホームペー ジなどの作成
- ・広報:町内会の掲示板の有効活用や、イベント 当日に、放送を入れて、イベントを紹介。
- ・既存施設の有効活用のため、市民アイデアを 集める!羽村駅改札前の掲示板の掲示方法は?
- ・公園内にBBQ場の設置。(既存施設もその存在が 広がる)
- ・はむらんの無料化、本数を増やす。「コミュニ ティバスの目的達成を目指す」
- ・若い人(高校生など)の意見集約を!
- ・青少対そのものは重要であり、現代版に書き換 えたらどうか。

その他

企業

- ・市内企業を紹介してくれる総合窓口的 な施設の設置(ちょっとした生活の中 で困ったことを解決してくれる窓口)
- ・会社の紹介(得意分野は何か、一般市 民に分かりやすく、面白く紹介)
- ・企業との災害時の支援締結
- ・イベントなどを実施し、市民がより身 近に接することができるように

- 人を集める A:人口を増やす→住んでいる人が住みやすい **→PR**にもなる
- B:遊びに来る人を増やす→ただしこれもAの充実 があればこそ!

羽村 隣が何をしているか 分からないところもある。

田舎 生活がその集落で 完結している。



10年後、人を集めることをポイントに置き、①人口を増やすのか、②遊びに来てくれ る人を増やすのかの2点を整理し、住んでいる人が住みやすいことが一番重要で、それ が市のPRにもつながっていくと考え、人口を増やす方向性で考えた。

人口を増やすためにできることを考えると、行政の役割が増えた。具体的には、町内 会の掲示板や、新しくできた羽村駅改札の掲示板の効果的な活用方法、防災無線のイベ ント周知の活用などである。あるだけでなく、どう活用するのかが大切である。BBQが 流行っているなか、堰下レクリエーション広場はあまり知られていない。街中の公園や、 温浴施設の近くにBBQ場をつくることで、別の場所にもBBQ場があることを知ってもら える相乗効果が期待できるのではないか。施設間の移動には、無償化したはむらんに、 いつでも気軽に乗ってもらえるようにし、コミュニティの活性化につなげていくことが 必要ではないか。

また、人とのつながり、大人と子どものつながりの継続や、企業と市民をつなぐイベ ントも必要ではないか。

第4回羽村市長期総合計画審議会(R3.3月書面開催) 【資料1-1】−般市民向けワークショップの結果



10年後の 羽村の 理想の姿

ソフトとハードの 調和を活かして安心な生活が できるまち

理想の姿の実現のため、それぞれができること!

・職住近接

• 優良企業誘致

個人 (市民)

・バーチャル同窓会

・同窓会フェスティバル

公助

・成人式

行政

- ・挨拶(近所、お店)
- ・家族と話す
- はむらんを使う
- コミュニケーションの広がり
- ・文化協会、体育協会
- ・神社・仏閣が多い
- メリット
- ・リーダー養成
- ·町内会加入率
- ・リアルはリアル(バーチャルと 分ける)
- ・バーチャル町内会
- ・年代、趣味で分かれる
- ・リアルとは別軸で横のつながり
- ・ピアノ教室
- ・若い人メリットがないと

自助

企業

・分かりやすい工場 (会社) マップ

・地元への就職

共助

防災訓練

社会福祉

協議会



前回までで、求めるものは豊かさより「安心」という ことを打ち出した。その安心のためにどうするのか、"コ ミュニケーションの広がり"を考えた。

そのために、町内会に加え、文化協会や体育協会など のいろいろな団体が横に繋がっていけば、コミュニケー ションがさらに広がり、安心感につながる。それをつな げていくことが行政の役割である。また、町内会など皆 で助け合う(共助)ためにコミュニケーションの輪を広 げておきたい。

また、団体に参加していない個人をつなげるために、 行政が音頭をとり、企業がスポンサーについてイベント を開催し、コミュニケーションを広げて、地域が広がっ て、安心につながれば、10年後の羽村の理想の姿になっ ていくのかなと思う。

見つけよう、あなたの理想の 条来の羽谷 羽村市の10年後を考える市民ワークショップ

10年後の羽村の理想の姿の実現のため…

私たちができること! やりたいこと!

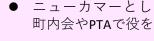
第3回では、これまでグループで検討してきた10年後 の羽村の理想の姿を実現するために、参加者の皆さん ができること、やりたいことなどを一人ずつ発表しま

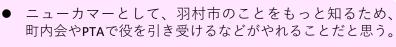












- - 日中は仕事があり、地域の活動には参加できないが、 このような話し合いの場に積極的に参加して、意見を 言い、その様子を地域の人に伝える、そのようなこと
 - このようなワークショップは、1回や2回の参加では大 きな成果につながらないこともあるので、何度もみん なで話し合ったり、とりあえずやってみたり、その結 果を反省して、次につなげたり、そのようなつながり や継続が、10年後の実現にもつながると思う。
 - 町内会に入っているが、活動には参加していないので、 防災訓練に参加してみようと思う。

- グループっ ● 町内会・自治会などのコミュニティの広がりが土台に ● この場に参加したからこそ言えること、コロナが落ち着
 - なれば、羽村がより住みよいまちになるのではないか。 このようなつながりの場に自分で参加し、人とのつな がりを益々強くしていけば良いかと思う。
 - をちょっとずつ積み上げていければと思う。

● 行政に対する意見だけでなく、地域のコミュニケーショ ンなどのお話もできた。このような機会があれば、また ぜひ参加したい。

いたら、このメンバーで懇親会を実施したい。

アを持ち上げる先があると良いなと思う。

● やれること:意識の高い方に囲まれて、羽村に益々興味

を持つことができた。これからも羽村に興味を持って生

活しながら、皆さんと関わりを持っていきたい。やりた

いこと:意識を持ったまま、住みよいまちづくりに個人

レベルであるが、アイデアを持てればと思うし、アイデ

● 自分の住んでいるところを良くしたいという人を、集め

てくれたことが素晴らしく、ありがたい。良いところ、

良い人を見つける意識を持って過ごせればと思います。

グループ1

からのまとめ

● ワークショップに参加して、羽村のことをたくさん知る

ことができた。市のイベントなどにもっと参加して、さ らに羽村市のことを知っていきたい。地域の方とのコ

ミュニケーションが足りないと感じたので、知っている

● 来年は東京2020大会のボランティアに参加する予定であ

● 羽村についてもっと勉強したい。庭に花を植えて周りを

● 羽村の特産品があまり知られていないので、羽村の"こ

れは有名というもの"を見つけて、それを提供できるお

る。時間の余裕があれば、羽村の事業にも参加している

ところ。羽村の歴史をもっと勉強して、羽村の観光ガイ

方を見かけたら、積極的に話しかけたい。

ドなどもやってみたい。

店を考えられたら良いなと思う。

きれいにしたい。

リーダーの皆さんの進め方、議論のまとめ方が素晴らしかった。

今回のワークショップでは、参加者の皆さんの熱い想い、考え方の斬新さが非常に勉強に なった。これまでの時代は、組織の時代と言われ、企業、行政、地域の団体など、所属してい る組織を背負って活動していた。しかし、一人ひとりが皆さんのように想いや考えを持って行 動すれば、組織に関係なく、繋がったり、新しいものを生み出せると感じた。

これからは「協創」の時代と考えている。組織と組織や一人ではできないが、多様な人たち が一緒になれば、様々な問題が解決でき、新しいものも生み出せると信じている。今回このメ ンバーで集まれ、話ができたことはその第一歩になったのではないか。



グループ3

おしゃべりCafe in Hamura Zoo 語ろう「羽村の宝!&10年後の羽村!」

第4回羽村市長期総合計画審議会(R3.3月書面開催) 【資料1-2】子育て世代向けワークショップの結果



一時保育利用: 2人 【概要】日時 ①R2年11月4日例10時~正午 参加:3家族(6人) ②R2年11月8日(1)10時~正午 参加:7家族(22人) 一時保育利用: 6人

会場 羽村市動物公園芝生広場

子育てをしていて感じる「羽村の好きなところ・残念なところ」や、10年後の羽村について、「こんな羽村で子育てしたい」 「子どもたちが大きくなった時、羽村はこんなまちであってほしい」などのテーマでおしゃべりしました。 主な意見は、次のとおりです。

おしゃべりCafe in Hamura Zooでは、秋の心地よい青空のもと、お父さん・お母さんは以下のテーマについて楽しくおしゃべり をし、お子さんたちは一時保育で動物公園の見学を楽しんで過ごしました。この事業は、「東京で子育てしやすいまち」を推進 するプロジェクトである「はむら家族プロジェクト」とのコラボ企画でもあり、開催日以降も連絡を取るなど、子育て世代同士 のその後の交流にも結び付いたイベントとなりました。



良いところ・好きなところ

◆地域の人、近所の人が優しい

保育園の見学や、市役所の対応も、人に優しい。これまで、 日本のさまざまな地域で暮らしてから、羽村に来たが、どこ を取っても羽村はやさしい。

◆地域のつながりが深い

町内会などが強い所は防災力も強い。加入しない人も多いが、 加入すると地域の情報ももらえて、万が一の際も助けてくれる。

- ◆根がらみ前水田が 良い、癒される
- 一年中癒される田舎風景(あぜ道・水車小屋・夏の稲)。
- 一年を通じていろいろな体験ができる。子どもにも自分が小さい ころに遊んだ遊びをさせてあげたい。
- ◆公園がたくさんある

徒歩圏内に公園がたくさんあり、新型コロナウイルスによる自 粛中、児童館に行けなくても大丈夫だった。小さい子どもが遊 べる遊具もあってよい。遊びやすい。

◆まちなみが良い

土地もアップダウンが少なく、大きな山もない。子どもがまだ小さいですが、 ベビーカーを押しやすく、散歩がしやすい。小さい商店(パン屋さん)など も残り、ただ散歩をするだけでも楽しい。

◆保育園が すごい、 すばらしい

市内に認可保育園が13園・認証保育園が3園と、コンパクトだけど保育園 がたくさんある。園同士の情報が密。毎月園長の会議を行っているとこ ろは日本中見ても他にない。保育展も開催している。それぞれの園の良 さ・カラーがある。

◆児童館がある

初めての訪問はドキドキするけど、お弁当を持参して館内で食べられ、 雨の日でも行けるので助かる。それぞれ特色があるので良い。相談員も いるから、気軽に相談もできる。保育園・幼稚園の情報も聞ける。中央 児童館にはプラネタリウムがある。

◆インスタグラム・ Facebookを 運用している

フレンドリーな配信内容で好印象。内容や目線が子ども・若い世代に向い ていて、イベントもわかりやすい。インスタグラム・Facebookともに、家族 写真撮影会・家族ミーティングなど、市民を巻き込んでの活動がうまい。

<そのほかの意見>

- ・羽村市動物公園
- ・図書館(子連れでも行きやすい)
- ・ゆとろぎ(エレベーターと図書館への通路やイベント)
- ・チューリップ畑 ・花が植えてある
- ・羽村の堰 · 中車水車小屋
- ・水がきれい・おいしい
- 自然がいっぱい

- ・病児保育・病後児保育が頼みやすい
- ・学童の預かり時間が長い
- ・助産院が近くにある(産後ケアが楽に受けられる)
- ・地域のイベントが色々ある。 ・おまつり
- ・外遊びが充実している。
- ・はむりんがかわいい。
- ・はるのひ (ベーグル屋) ・ライオン餃子(餃子屋)

残念・いまいちなところ

◆PRがもう一息、知られていない

羽村が「どこ」か知らない人が多い。良い所・自慢したいとこ ろあるけれども情報発信がいまいち...。根がらみ前水田も川も いい所なのにもったいない。プロモーションにお金(予算)を 使うとほかの本当にお金を使わなければいけないところに使え なくなると思うからバランスが難しい…とも思う。

大橋の下と対岸をつなぎジップラインにしたり、川沿いでキャ ンプやBBQ施設を作って行ってみたいと思わせるようにするこ ともできる。

◆名物がない



その名前を言えば羽村!となるものがない。羽村のお土産もない。 「ドンッ」と売れるものがほしい。 羽村と言えば、チューリップくらいしかなくて残念。

◆屋外プールがなくなり残念



水上公園がなくなったことは残念だが、代わりに、子どもが楽しめる施設 (川をせき止め釣り堀や川遊び場など)を作ってもらいたい。 サイクリングロードにつなげて楽しめる空間づくりもできるのではないか。 遊びに来る人は、羽村・青梅を超えて奥多摩に行ってしまう...。企業と連携し てそのような場を作るのもいいと思う。

<そのほかの意見>

- ・道路の起伏がガタガタ ・歩道が細い
- ・街灯が少ない
- ・はむらんの本数が少ない
- ・予防接種(インフルエンザ)の助成がない
- ・PTA・教育がしっかりしているが古い (もっと今のお母さんやお父さん、子どもに 対して自由な風を吹かせてほしい)
- ・保育園(幼稚園)の所在地が偏っている (市が補助金を出してでも分散できるように
- してほしい) ・保育展は良いが、幼稚園の情報も同時に聞け
- ればさらに良い
- ·子育てしやすいまちをもっとアピール **-1**-

こんな羽村で子育てしたい

こうすれば (こうなれば) もっと羽村で子育てしやすい点を お話しました

- ・時代に合わせた教育体制
- ・小さい子どもがいる家族に手厚い支援
- ・子連れでも行きやすい病院が増えるとよい
- ・土曜日や日曜日に仕事をしている親でも参加できるイベントを開催し、交流の場を 作ってほしい
- ・散歩道(川沿い)を子連れでも行きやすいように整備してほしい
- ・歩道を広く明るくしてほしい
- ・公園に小さい子どもが遊べるもの(ブランコ・滑り台)があったらよい
- ・公園マップの作成(設置遊具の対象年齢、駐車場の有無などのコメント付き)
- ・宝探しなどができる公園(子どもが考えて遊べる)
- ・手入れの届いた公園(公園の木や枝が落ちていて危ない)
- ・羽村市動物公園 市内の人にはチケットをプレゼントしてきてもらう

10年後、その先へ残していきたいもの

子どもたちが大きくなった時に 残していきたいことなどを お話ししました

- ・自然と自然の中での体験(田植えや稲刈りなど)
- ・人同士のつながり、他の地域から来た人を受け入れる姿勢 (他の地域から来た人を受け入れ、力を活かしてみんなで作り上げるまち)
- ・今の取組みを続けていく
- ・インスタグラム・Facebookを通じた情報発信(少しづつ進んでいるが、全国に羽村市を広める 変化はまだまだ。着実に進めていくしかない)

こんなことがプラスされると良い点

- ・羽村市の知名度向上のために
 - →企業をキャッチして一緒に名を広めていく
 - Ex.チームラボとコラボし、多摩川や動物公園を舞台に何かやると良いのでは。
 - →市民自身に羽村市を広めていくというスイッチが入れば、知名度がどんどん広まっていくの ではないか。そのきっかけは必要。
 - →市の規模がちょうどよく、進めるとなった際も団結しやすい
- ・子育て世代が自分事としてまちづくりを考えていかないといけない。

10年後の羽村はこんなまちであってほしい!

10年後の羽村の姿を 言で表していただきました

♥いつまでも過疎化と無縁 活気あふれる市

人口減少・少子化で10年・20年後に人口 は減少するが、人が少なくなっても活気 に満ちて、市民もみんなで良くしよう! という気持ちを持てる市に

*アップグレード羽村

いままでの歴史を活かしながらも道路・公園・保育園など 住みやすくなるためさらにアップグレードする。

ますべての年代に優しい羽村(よりそう羽村)

子育てしやすい羽村にしようとしているため、少しずつでも「変えていく」 ことを続けてほしい。子育てだけでなく、お年寄りにもやさしいまちに

- *****今よりも羽村に子どもが増えている!
- ₹ 主体的なまち 住民の意識、世代間交流・尊重
- ・ 子どもたちも高齢者も安心して暮らせるまち
- \$
 緑いっぱいでデジタル(オンライン)も両立したまち(すべての人に寄り添って)
- \$自然がいっぱい 笑顔がいっぱいの街
- **★教育の充実(中高一貫とか最先端の教育が受けられる)**
- **♣**人が集まれる場所を(ショッピングモールとか)
- ₹商業施設の充実
- \$どの世代の人も「個」として尊重されて暮らし良く 風通しの良い 笑顔あふれる 羽村

- 時保育のお子さんたちも、 保育士さんと一緒に









若者世代向け ワークショップ (結果)

オンラインで語ろう、羽村市の10年後 **羽村のワカモノワークシ**ョップ

オンラインでの ワークショップは 初開催! 第4回羽村市長期総合計画審議会(R3.3月書面開催) 【資料1-3】若者世代向けワークショップの結果



【概要】

☆水 ~

んでいる!

実施日時 令和2年11月18日(水)午後7時~9時 参加者 20代~30代の市内在住・在勤の方 5人 コーディネーター 松本祐一さん(多摩大学経営情報学部教授)

【内容】

ウェブ会議ツール「ズーム (Zoom)」を活用し、「自分たちが10年後住みたい羽村市はどんなまちか」をテーマに、「羽村のイメージ」「自分たちの未来の理想の暮らし」「羽村のイケてるところ、イケてないところ」などについて、若者の目線で検討しました。主な意見は、次のとおりです。

羽村市のイメージ

羽村市のイメージを お話ししました

玉川上水の起点しおいしい水が水道

から出ている!はむりんも水にちな

私立の中学校・高校に行ってい

たが、友達から羽村ってどこ?

と言われ続けてきた!!!

☆知られていない へ

羽村のイケてるところ・ イケていないところ

羽村市の良いところ(イケてるところ)、良くないところ(イケていないところ)をお話しました。

☆コンパクト へ

商業施設・住環境・自然が バランスよくまとまっている!

☆なんでも近くにある

小さい面積の中に、レジャーを 含め、生活に必要な全てのもの がギュッと詰まっている!

☆広い道路・団地・工場

初めて羽村に来た時に、道路が広いと 感じた!

イケてるポイント

- 自然(水、羽村堰、チューリップ畑)
- 動物公園(自分の子どもと自分が小さいときに行った場所を共有できる)
- 森や木の雰囲気など、手入れされている感じがあり、全体としてきれいで明るい
- 駐輪場がタダ
- 新型コロナウイルス感染症にかかる商業支援が早急で、団結力がある(テイクアウト支援)
- 子育てしやすそう(保育園も入りやすい、車でちょっと出れば大きいモールにも行きやすい)
- 空間的なゆとりがちょうどいい。ちょうどいいバランスでお店が配置されている
- 伝統を地域の方により主体的に継承されている(お祭りやお 囃子などの文化的な部分)

イケていないポイント

- 路上喫煙のマナーが悪い
- 駅前で、イケてる情報(観光情報や街中の情報)が得られない。観光案内所も気づきにくい場所にある。
- 羽村高校へのアクセスが良くない(駅から歩くと20分以上、 バスの本数が少なく、はむらんのタイミングが悪い)
- 都心へのアクセスが、あまりよくない
- 駅前の商業施設が乏しい(立川などには、カフェや本屋など、 時間をつぶせる場所が多い)
- 何も変わらない(昭和・平成の時代から変わっていない印象。 動物公園や他の公共施設、イベントなども今風に改善できる ことがありそう)
- 控えめなPR(もっと積極的にPRすれば全国区にもなれることもある。控えめにPRしていところが羽村らしさなのか、中途半端な感じでもある)

10年後の理想の暮らし

羽村市での暮らしに限定せず、10年後どのように暮らしていたいか、どのような生活ができるようになっているかをお話した上で、羽村に住み続けたいか、都心に住む理想はないかなどをお話しました。

経済的な自由が得られ、自己実現ができる時代になっている(いろいろな働き方を選択でき、副業などの経済的自由が進み、自己実現ができるようになっている)

都会に住みたい気持ちはあまりないが、都会 との関係性はもち、都心に集まる情報ともつ ながっていたい。

東日本大震災の際に、公共交通機関に頼らず に、通勤できることの意義を感じたので、職 場と家が近い今の環境で生活していたい。

10年後は、自分の健康や、親の介護も心配になる年齢。10年後は、健康であり、常に笑っていられるような生活をしていたい。

中央線沿いの勤務先に

オンラインでの取組みが進み、

自由な場所で仕事ができるよ

うになっていると思う。

10年後は、中央線沿いの勤務先に 異動し、休日は趣味の演劇鑑賞を したい。

今は羽村市内に勤務しているが、 高校が高田馬場エリアだったこと もあり、いずれは、そのエリアに 異動したい。しかし、多摩地域出 身なので、住むことを考えると都 心まで30~40分程度の市部の方が 良い。市部から区部に通勤するイ メージを持っている。 蛇口をひねって安全な水道 水がそのまま飲める羽村市 であってほしい。

住む場所は、実家から程よい距離感があり、夫婦のそれぞれの実家までの距離がちょうどいい(中間地点)のところ。羽村はその位置にある。

自分や家族に安心・安全があってほしい。

犬と一緒に入れるお店が増えてほし

例えば、将来結婚する人に、新宿に住んでと言われたらとても迷ってしまいますが…10年後も羽村に住んでいるイメージ。もし10年後家族を持った場合、今近くにあるスーパーや学校など、なんでも近くにそろう羽村がそのままであってほしい。

気性の激しいタイプではないので、都会よりも羽村の方があっていると感じている。なんでも身近にあるということが将来の生活の理想なので、羽村くらいが一番ちょうどよいと感じている。

大学時代は都心まで通って、頭痛がひどくなったこともあるが、羽村市では、そういったこともなく仕事ができており、ゆとりのある環境ができている。都会と田舎の間(とかいなか)で暮らすことが人間としての本能を養うことができると本でも学んだことがあり、それが羽村に当てはまると感じている。

地域活性化に関する取組みや旅行が好きなので、全国 47都道府県の名産品、郷土料理に囲まれた生活をして いたい。

松本コーディネーターから

かつてのワカモノは、都会に住みたい!という漠然とした想いがあった。 しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、都心ではなく、郊外に住むということなどが、今までと は違った想いが見直されてきており、今後羽村市を魅力に感じる人たちも増えていく可能性がある。

-1-

"羽村のイメージ"や、"イケているところ・イケていないところ"、 "10年後の暮らし"の対話から出てきたキーワードは、**"ちょうどいい"** 羽村は、派手すぎず、地味すぎず、中間的なちょうどよさが良いところ。一方で、中途半端感があり、どっちつかずになっている印象とも捉えることができる。

10年後の未来を考えたとき、このちょうど良さをキープするのか、何かに特化したまちづくりを進めていくのか。

外から人を呼び込む際には、住んでいる人が満足しているちょうどよさは、伝わりにくい。

上記のキーワードを受けて、羽村市の今後の方向性としては、今あるものをキープしていくことがよいのか、それとも尖ったものを打ち出していくのが良いかについてや、ちょうどよいまち羽村と言われても今一つ響いてこないため、違った言葉を出したほうがよいかなどをお話ししました。

■ 10年後の羽村市はどんなまち?

- 電市内在住の方は、そんなに変わってほしいとは思っていないと思う。今の羽村にあるものを生かして、積極的にPRに力を入れていくことが良い。
 今回実施した産業祭なども、市民は知っているが、その良さが市外の人にはあまり伝わっていない。
- ▼ファミリー層向けの飲食店が羽村市内に進出しているイメージである。区画整理 事業が進んでいくと、さまざまなお店の進出、魅力あるまちづくりにつながって いく。
- **\$SNS**での発信などを含めて、羽村はコンパクトにまとまっている。他市はまちづくりに参画したいと思っても、どこに参加したらいいかなど分かりづらい。

オンラインワークショップに 参加してみて(参加者の声)

初めて開催したオンラインワークショップの感想をお聞きしました。

初めてZoom会議に参加した。 羽村市の今後を考えると、吉祥 寺のようなおしゃれなイメージ は大事だと思う。そういったお しゃれなイメージを出していく ことが大事で、わくわく感を出 していくことが大切だと思う。

今回のワークショップは、羽村市 民だけでなく、市外在勤の方など も参加していて、これまでと違っ た発見ができた。

羽村市のPRにつながることにこれ から取り組んでいきたい。 職場関係者としか関わっていなかったので、楽しかった。あまり羽村市のことをしっかり考えていなかったが、言葉として話すことで自分でも意外な発見ができた。あと3年は羽村市内で働くと思うので、これからのまちの変わっていく様子を楽しみにしていきたい。

オンライン会議は初めてで緊張した。楽しく羽村のことを考えることができ、羽村の「コンパクトさ」「ちょうどよさ」をあらためて感じた。

今回は、ワークショップとしているが、リアルの会議では、存在感のある人や声の大きな人に引っ張られてしまうが、オンラインだと参加者一人ひとりの言葉が心にささる感じがする。

一人ひとりの言葉に集中できるの で、取組みとしては良い取組みだ と感じた。

